４枚刃パイプカッタ　２５　取扱説明書

■　はじめに

４枚刃パイプカッタ２５（以後、カッタ）をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、十分理解した上で正しくお使い下さい。

品　名	品　番	切断可能な管（呼び）				替刃品番
		炭素鋼鋼管	ｽﾃﾝﾚｽ鋼管	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ外面被覆鋼管	
４枚刃パイプカッタ25	PCFB-25	15～25	15～25※1	15～25※2､3	15～25※3	PCFBE25

※1　ステンレス鋼管はスケジュール２０Ｓまで

※2　ポリエチレン被覆鋼管はＰ１Ｈ

※3　被覆鋼管の肉厚（鋼管＋被覆）は5.1mm以下

この取扱説明書は、カッタを安全にお使い頂き、あなたや他の人々への危害と財産への損害を未然に防ぐために守って頂きたい事項が記載されています。

お読みになった後は、カッタをご使用される方がいつでもお読みになれるように保管して下さい。

わかり易くするための表示と図記号の意味は、次のようになっていますので内容をよく理解してからお読み下さい。

⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示しております。

なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な事項が記載されていますので、必ずお守り下さい。

■　安全上のご注意

⚠ 注意

①このカッタの刃（以後カッタホイール）や切断された管の切り口は鋭利になっています。けがをする恐れがありますので、直接、手指で触れないように注意して下さい。切断作業時および、カッタホイール交換時には必ず保護手袋を着用して下さい。

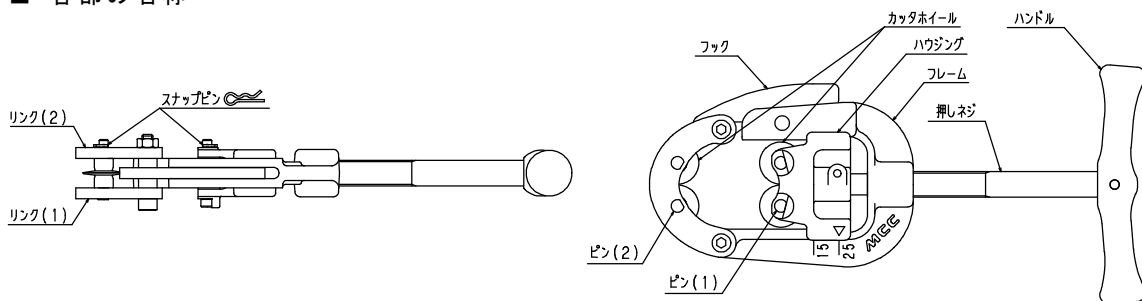
②切断作業の際には安全靴を着用して下さい。切断終了時に管と工具が落下する恐れがあります。

③切断物やカッタホイールが破損した場合は破片が飛び散る恐れがあります。切断作業時には保護メガネを着用して下さい。

④カッタを改造しないで下さい。カッタの故障原因となるだけでなく、事故を誘発する恐れがあります。

⑤カッタの刃先部に錆が発生すると、切れ味が悪くなります。使用後・保管前には刃の水分を拭き、カッタの各部は常に注油・点検などのメンテナンスを行って下さい。また、損傷のある状態では使用しないで下さい。

⑥カッタ及び管に付着している土や異物は取り除いてから使用して下さい。カッタ及び管に異物が付着したまま切断作業をするとカッタホイールが破損する場合があります。

■ 各部の名称

■ 使用方法

①フックの端部を押してリンクを開放し、管にセットします。

②４個のカッタホイールが管に接触するようにハンドルを右回転させます。

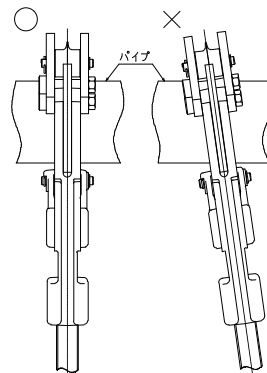
③カッタホイールを管に少し押し込んだ状態でカッタを前後に数回動かし、管の全周に切り込みを入れて下さい。

※この時、切り込み線が螺旋になっていないか確認して下さい。

④カッタホイールを少しずつ管に喰い込ませながら切断して下さい。

※カッタは管に対して直角にセットしてください。斜めにセットすると螺旋切れになりやすくなります。

※切り始めは切り込み線を目視で確認し、螺旋切れになっていないか注意しながら切り込みを行ってください。螺旋切れのまま切り進めると、コジによりカッタホイールが破損する場合があります。

※切り込みを一度に深く入れすぎると、管が変形したり、カッタホイールの寿命を短くする原因となります。ハンドルを９０°程度回転させ、適度に切り込むことにより、きれいな切断面となり、カッタホイールも長持ちさせることが出来ます。

■ 替刃（カッタホイール）

替刃をお買い求めの際は、４枚刃パイプカッタ２５替刃とご指定下さい。

４枚刃パイプカッタ２５替刃品番：ＰＣＦＢＥ２５（１ケ入）

◆交換方法

①「カッタホイール」は鋭利になっていますので、保護手袋を着用して下さい。

②「スナップピン」を外します。

③「ピン」を「カッタホイール」から抜き取り、古い「カッタホイール」を取り外します。

④新しい「カッタホイール」を逆の手順で取り付けて下さい。

⑤**新しい替刃を取り付ける際には可動部（ピンなど）に必ずグリスを塗布して下さい。グリスを塗布せずに使用すると切断時の操作が重くなり、摩耗によりカッタが破損する場合があります。**

株式会社 MCCコーポレーション

株式会社 松阪鉄工所

☎ (059)234-2454

http://www.mcccorp.co.jp

１５０８２６